

これからの日本の移民政策に向けた教育プログラムの検討

～SDGs の問題意識を踏まえて～

現在、日本では労働力不足などの観点から人口減少が問題とされており、人口増加を目的とした移民政策の必要性に関心が集まっている。人口増加を目的とした移民政策の可能性を、多文化主義であり大量移民政策を導入したオーストラリアを参考にして考察する。オーストラリアの移民政策は難民の受け入れが契機であり、日本とは目的が異なることが感じられた。現在は AI などの発展により、労働力が確保できることから、日本における労働力確保を契機とした移民政策は必要ないと感じた。しかし、日本では SDGs の推進が求められているため、環境などの問題で自身の国に住めなくなってしまった人に対する移民政策（難民政策）が必要だと感じた。国際的にみても、難民のための移民政策は現在までに存在していない（先行研究であるオーストラリアも含む）。このことから、現在施行されている移民政策を導入してしまうと格差が生じてしまう。その為、受け入れた移民にとって格差を防止する教育システムが必要だと感じた。また、教育システムにはメディアの可能性を検討する。